

No	主なコメント	対応例
1	e-radについて、使いづらいという声を研究者から聞くが、利便性の改善が進むとよいと考える。	ご指摘いただいた事項に加え、AMED内部のe-Radユーザに利便性に関する意見を聴取して取りまとめ、これらについて、同システムの次期改修に向けて、政府のe-Radシステム担当者に申入れを行っている。それらも踏まえ、現在、e-rad運営委員会事務局において、ユーザーインターフェースの見直しによる直感的に分かりやすいシステムの実現により、利用者の利便性を向上させる等の見直しを検討されていると承知している。 また、一部の公募において、e-radを利用した応募の流れをわかりやすく説明する操作マニュアルを提示する取組も行っている。
2	中央倫理審査委員会の取組が進んでいるのは大変良い。こちらの取組では質の担保にも留意いただきたい。	中央IRB事業については、平成28年度は調整費における事業として開始されたが、平成29年度からは中央治験審査委員会・中央倫理審査委員会基盤整備事業として、当初予算での事業となったため、引き続きPS/POのご意見も聴きながら、倫理委員会としての質の確保についても検討していきたい。
3	クリニカル・イノベーション・ネットワークで疾患情報レジストリが作られているが、医療版マイナンバーができたときに、必要なときにデータを収集すればいいということになれば、そのときに存在しているデータの質が問題となる。	ご指摘のとおり、今後、医療等IDの運用が開始された際には、データの質がより重要となるものと考えており、引き続き、データの質も担保しながらクリニカル・イノベーション・ネットワーク構築を進めていきたい。
4	AMEDの海外事務所に企業の人材を入れることも検討してはどうか。情報が入りやすくなるし、これから海外進出を狙う企業には、AMEDを通じて海外の公的機関や民間ともつながりができる。	これまでは海外事務所の円滑な立ち上げに重点を置いてきたが、今後、ご指摘を踏まえ、企業の身分を完全にAMEDに移籍せずに相応の活動を可能とする方策につき、企業の要望も聞きながら検討していきたい。
5	民間における信頼性保証のシステムやインテグリティを保つ上での要求等を参考にして、AMEDにおいてもアカデミアのリサーチインテグリティの取組を進めていただきたい。	研究データの信頼性の確保、保管・管理等に関し、研究公正高度化モデル開発支援事業において、国内外の大学・研究機関等の先進的な取組の現状調査を開始した。来年内を目途に取りまとめ、具体的取組のための基礎情報として活用していきたい。

No	主なコメント	対応例
6	<p>学術会議での最近の議論ではビッグデータ関連のものが多く、インフォマティシヤンの取り合いになっているところがあり、統合的にどう育てていくのかを考えていく必要があるのではないか。</p>	<p>政府が定める「健康・医療戦略(閣議決定)」や「医療分野研究開発推進計画(健康・医療戦略推進本部決定)」が平成29年2月に一部変更されたが、その中に、臨床データの活用による産学官連携の促進や、創薬等の実用化の加速化等を抜本的に改革する基盤(人材育成を含む。)の形成が位置付けられたところであり、各省やAMEDが一体となって、人材育成にも取り組んでいくこととなっている。また、今月から公募を開始した医療研究開発革新基盤創成事業(CiCLE)の事前評価においては、評価項目に「人材育成への貢献度合い」を入れており、臨床情報を包括的に集積し分析する能力等を有する人材の育成に取り組む課題を評価することとしている。</p>